

## 第4学年外国語活動学習指導案

4年1組 指導者 後藤大雄

### 単元 What do you want?

#### 1 本単元で子供が働かせる各教科等の見方・考え方

他者との関わりに着目すること

#### 2 本単元について

外国語活動の見方・考え方は、外国語によるコミュニケーションにおいて働く。コミュニケーションとは、目的や場面、状況などに応じて互いの思いを伝え合うことである。コミュニケーションにおいて、他者との関わりに着目することは、相手の性格や思考などを理解して相手に配慮することであると考えられる。だからこそ、外国語活動では、相手に配慮することを大切にしたい。そうすることで、外国語によって互いの思いを伝え合うコミュニケーションを体験することができるであろう。このことは、主体的に、学んだ言葉を使ってコミュニケーションを図ろうとすることにつながると考える。

本単元では、ピザやサンドイッチ、パフェを作るために食材カードのやり取りをする言語活動を扱う。学習を進める中で、子供たちの“Do you like strawberries?” “Yes, I do.”というやり取りには、相手はイチゴを好きだろうかかと相手に配慮している姿を見取ることができる。その際、相手に配慮する表現を用いた意図を問う。そうすることで、相手に配慮していたことに気付くことができる。1単位時間の中で、言語活動と振り返りを繰り返し行うことで、子供は食材カードのやり取りをするための相手に配慮する表現を自分の言葉として習得するであろう。単元の終末では、目的や状況が変わっても相手に配慮しながら、やり取りをすることができるようにしたい。

そこで、以下のような支援を具体化し、本単元でめざす子供の姿の実現を図る。

- スモールトークでは、相手に配慮する表現を用いる場面を提示する。そうすることで、相手に配慮する表現を用いてやり取りをしようとするようにすることができるようにする。
- 毎時間の終末では、やり取りで大切にしたいことを視点に振り返るよう促す。そうすることで、相手に配慮することのよさに気付くことができるようにする。
- 単元の終末では、パフェを作る活動を行う際、やり取りで大切にしたいことを問う。そうすることで、相手に配慮しながら、やり取りをしようとするようにすることができるようにする。

#### 3 本単元の目標

- 目的や場面、状況に応じて、相手に配慮しながら、欲しい食材カードを尋ねたり要求したりすることができるようにする。
- 相手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとすることができるようにする。

#### 4 本単元における評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
○ 欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しんでいる。	○ 欲しい食材カードを尋ねたり要求したりしている。	○ ペアの相手に配慮しながら、やり取りをしようとしている。

#### 5 指導計画（全4時間）

第1次 ピザを作るために食材カードのやり取りをする（1時間）


第2次 サンドイッチを作るために食材カードのやり取りをする（2時間）

第3次 パフェを作るために食材カードのやり取りをする（1時間）【本時1／1】

6 本時案 【令和4年11月25日 10:00~10:45 4年1組教室】

(1) ねらい パフェを作るためにやり取りをすることとおして、相手に配慮しながら、欲しい食材カードを尋ねたり要求したりすることができるようにする。

(2) 学習過程 ※下線は支援に対応する子供の意識

学習活動・学習内容	子供の意識	○教師の支援
<p>1 パフェを作るためにやり取りをする。(40分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相手に配慮すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>New menu in Goto sensei's Market?</b> 新しいメニューがあるのかな。</li> <li>• カップにアイスが入っているよ。もしかしてパフェかな。</li> <li>• 今日はペアで一つのパフェを作るのだね。</li> </ul>	<p>○パフェを作るためのやり取りで大切にしたいことを問う。そうすることで、相手に配慮しながら、やり取りをしようとするができるようにする。</p>
<p>パフェを作るためにフルーツのカードのやり取りをしよう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむこと</li> <li>• 欲しい食材カードを尋ねたり要求したりすること</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>やり取りをするときに、どのようなことを大切にしたいですか。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>サンドイッチのときみたいに、相手の好きなものや欲しい数を聞くことだよ。その方が、相手が嬉しいからね。</u></li> <li>• さっそく作ろう。Let's make parfait!</li> </ul>	<p>○相手に配慮する表現を用いた子供を見取った際、その意図を問う。そうすることで、相手に配慮していたことに気付くことができるようにする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A. What do you want?                      B. Do you like bananas?                      C. Yes, I do.                      B. OK. I want bananas.                      A. OK. How many?                      B. Two, please.                      A. OK. Here you are.                      B&amp;C. Thank you!</p> </div>	<p>B ぼくとCさんがペアだね。二人でAさんに欲しいフルーツを伝えよう。</p> <p>A じゃあ、わたしが二人に欲しいフルーツを聞くね。What do you want?</p> <p>B ぼくはバナナが好きだけど、Cさんはどうかな。Do you like bananas?</p> <p>C Yes, I do. Thank you!</p> <p>B 素敵なバナナパフェが作れたよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• みんなはやってみてどうだったのだろう。</li> </ul>	<p>○相手に配慮する表現を用いた子供を見取った際、その意図を問う。そうすることで、相手に配慮していたことに気付くことができるようにする。</p>
<p>2 本時の学習を振り返る。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 相手に配慮することのよさ</li> </ul>	<p>B Do you like bananas? とCさんに尋ねてみたよ。バナナは苦手な人もいて、Cさんはどうだろうと思ったからだよ。</p> <p>C わたしはBさんに確認してもらえて、嬉しかったよ。</p> <p>A やっぱり好きなものを聞くのもよいね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ペアを変えてもう一度やってみよう。</li> </ul> <p>A <u>Do you like melons? Dさん。</u></p> <p>D Yes, I do. I like melons.</p> <p>A よかった、メロンが好きなのだね。I want melons.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• How many? OK. Here you are.</li> </ul> <p>A 美味しそうなパフェができたね。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <u>相手の好きなものや欲しい数を聞くことが大切だと改めて思ったよ。だって、人によって好きなものや欲しい数が違うからね。</u></li> <li>• これからも、何かを一緒にする時は、相手のことを考えていきたいな。</li> </ul>	<p>○授業の終末では、やり取りで大切にしたいことを視点に振り返るよう促す。そうすることで、相手に配慮することのよさに気付くことができるようにする。</p>

